



一隅を照らす運動総本部だより  
No. 58



一隅を照らす運動ホームページアドレス  
<https://ichigu.net>

一隅を照らす運動二ユース

◎熱海市に土砂災害義援金を寄託

令和三年七月十九日、一隅を照らす運動総本部は七月一日からの梅雨前線に伴う大雨により、静岡県熱海市において発生した伊豆山土砂災害の義援金として、緊急救援引当金から義援金三十万円を寄託した。

被災された方々の生活が一日でも早く元通りになりますように、またお亡くなりになった方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

令和三年七月十九日、天台宗務庁（滋賀県大津市）並びに新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンライン参加者を含めた形にて、令和三年度第一回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、令和二年度一隅を照らす運動の事業報告、各会計の決算等が審議・承認された。

また、今回の理事会において監事、一隅を照らす運動企画運営委員の就任があり、それぞれ報告された。

【監事】

山岡 智恢師 滋賀教区

石垣坊住職・新任・補欠

【企画運営委員】

谷 晃仁師 群馬教区

永福寺住職・新任

高橋 志栄師 神奈川教区

法華寺法嗣・新任

◎公開講座を開催



一隅を照らす運動総本部では令和三年十月一日、新型コロナウイルスの影響を鑑み、感染防止のため一隅を照らす運動公式ホームページにて、第二十回一隅を照らす運動公開講座と題し動画配信を行った。

講師に、一般財団法人おもい・つむぎ財団代表理事川端秀明氏を迎え「文化を育てる地域コミュニティ」地域文化は自分たちがつくる」と題した講演動画を作成した。

川端氏は東日本大震災のボランティア活動を通じて、被災地のコミュニティが寸断されている状況の中、地域の人たちの要望により避難所や仮設住宅に住む人々が気兼ねなく自由に集まる事が出来る「みんなのとしよかん」プロジェクトを創設された。

現在では東北などの被災地だけでなく、

過疎地やネパール、インドネシアなど計四十四ヶ所に「としよかん」を設置している。「としよかん」に置かれている書籍は多くの人たちの寄付により現在四十五万冊に及んでおり、天台宗も微力ながら書籍を寄付させていただいている。

また「としよかん」の設置など各地を回る中で、地方や過疎の進む地域は財源の確保が難しく文化や芸術に触れる機会が著しく減少しており、コミュニティの再生には行政や自治体の財源に頼らず維持できる文化・芸術に触れる機会を提供することが必要との思いから一般財団法人おもい・つむぎ財団を設立された。「としよかん」と同様に過疎地では導入が難しい「美術館」を提供するため、「みんなのアートプロジェクト」として各地の小学校や地域のコミュニティ施設にて「一日限りの美術館」なども開催されている。

川端氏は、これらの活動を通じて持続可能な地域コミュニティの醸成を図られており、お寺は昔から地域のコミュニティの中心であり、災害や緊急時にはお寺がコミュニティの中心になっている姿を何度も見えてきた。お寺は落ち着く場所であり、みんなが集まれる場所であるから地域の中心にお寺があることは非常に重要であるとの考えを述べられた。